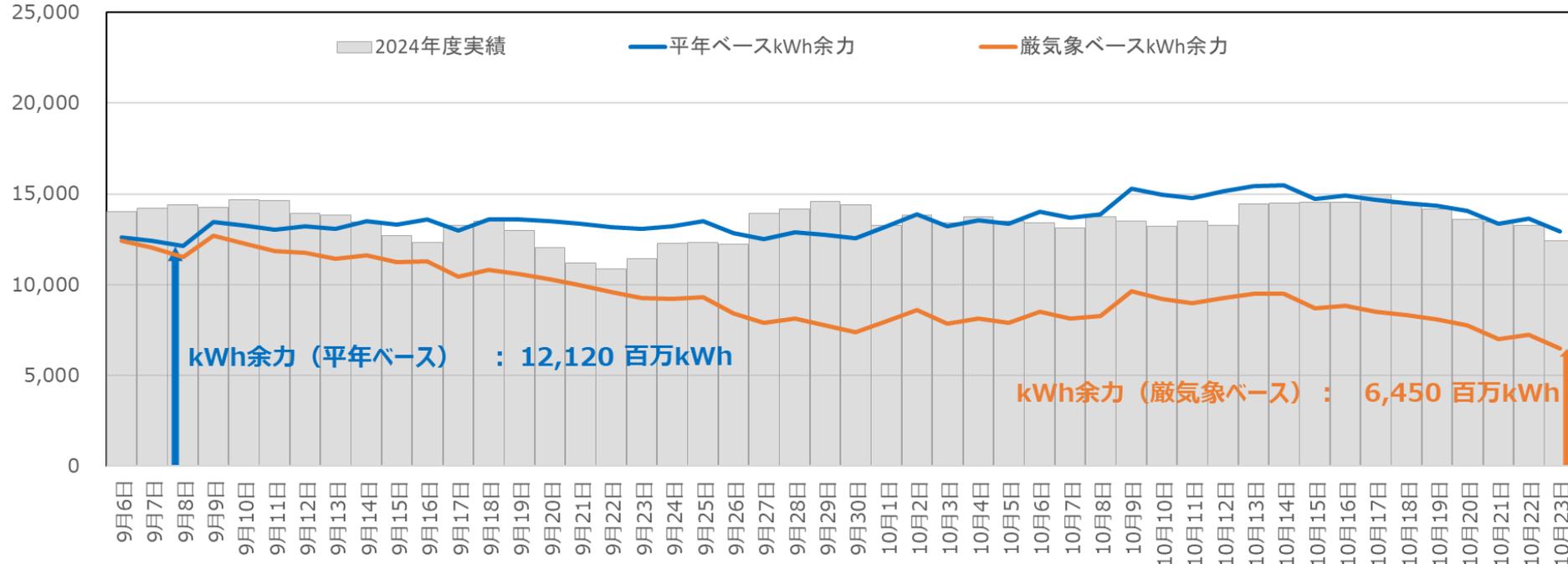


# kWhモニタリング（対象期間:9/6～10/23）の結果

- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は9月8日に最小となる見込み。その値は **12,120百万kWh** であり、これは、対象期間の平均電力消費量の**約6日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、10月23日に**6,450百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約3日分**に相当。
- 現時点で燃料在庫の観点からはひっ迫の恐れはないが、需要の増加や、原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止によって状況が変化する可能性があり、今後も動向を注視していく。

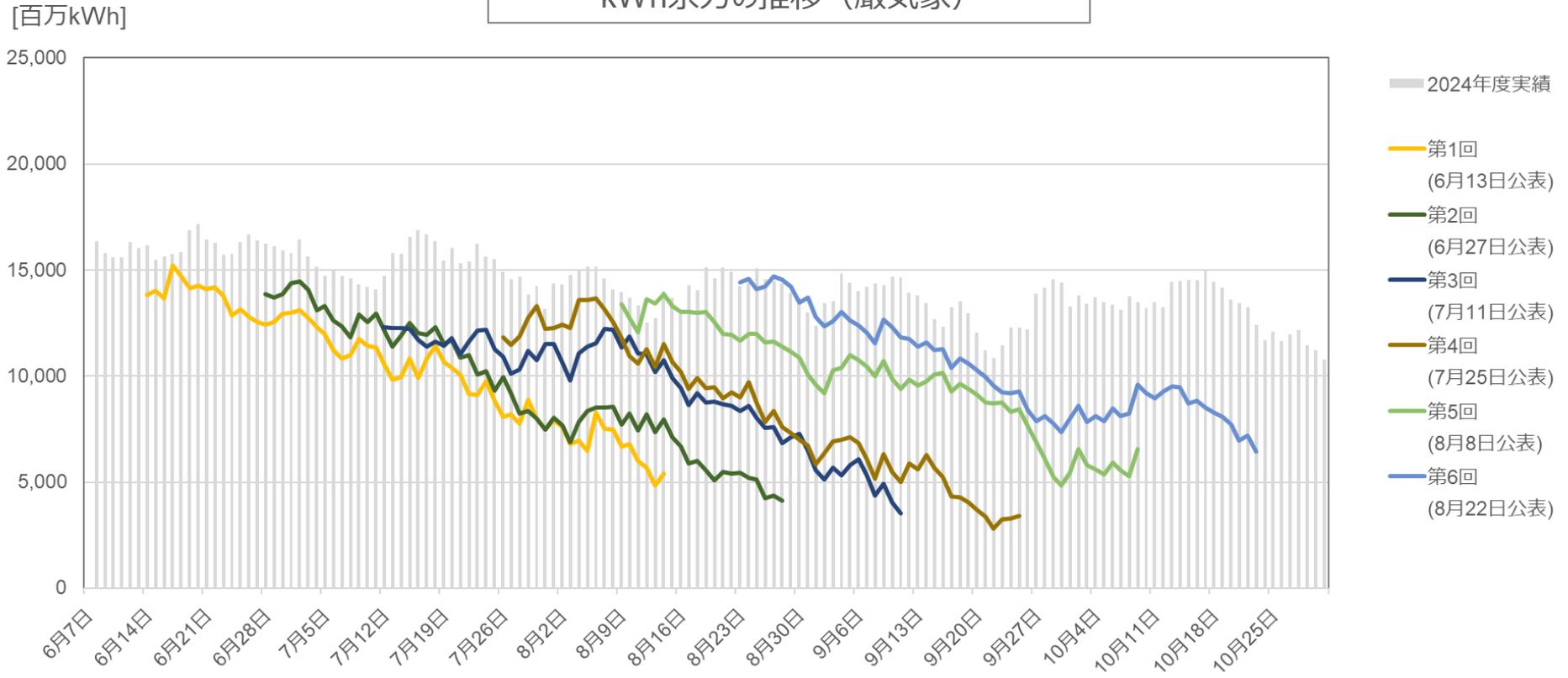
[百万kWh]



# kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

■ 前回（第5回）のkWh余力（厳気象ベース）と比較すると、一部事業者の燃料調達等の影響により、kWh余力は増加。

kWh余力の推移（厳気象）



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない